

設計: 建築家 藤野 浩二 香川県立美術館 2000年 (MAYUMIYAの工) 十次郎木村建築事務所 監理: American Wood Merit Award受賞

### 平成11年度「かがわ地場産業デザインルネサンス事業」を終えて

昨年の6月24日に第1回目のデザイン開発チーム打ち合わせ会をスタートさせて以来、開発メンバーたちは、地場産業の現在の状況の把握や製造工程の見学などを行い、喜多先生に指導を仰ぎながらプロダクトデザインおよびパッケージデザインについて学んできました。

喜多先生からは、常に前向きな意見をいただくとともに、もっと個性的で、突き詰め下げたアプローチを求められました。勉強会・打ち合わせが終了した後も、交流会にて喜多先生から海外での活動の様子や日本各地の取り組みなど、生の声を聞くことができました。デザイン開発チームの最終の打ち合わせとなった2月4日には、原寸でのモデルによって検討を重ね、さらに、3月13日の「喜多俊之講演会」では、試作品によるプレゼンテーションも行われました。

瓦では、室内の壁材・インテリアとしての用途開発、石では基石の新しいデザイン、照明器具や廃材によるパネル、傘立て、石臼など、陶管でのポスト、植木鉢の新デザインなどを試作し、うち1点が意匠登録するまでに至りました。パッケージでも、オリブオイルのデザインが採用され、また、小豆島醤油パッケージデザインも、来年5月の販売に向けてデザイン開発が継続され、今後の展開が注目されています。

平成11年度の事業はこれで終了しますが、個々の販路拡大、販売促進、プレゼンテーション活動などを今後も継続し、さらなる発展が期待されています。

### 研修委員会からのお知らせ

(財)日本産業デザイン振興会との共済により、グッドデザイン賞応募説明並びにデザインセミナーを開催します。会員の皆様はふるって参加ください。

日 時 : 平成12年5月12日(金) 14時~16時30分  
会 場 : 高松市林町2217-1 サンメッセ香川 2階サンメッセホール(大会議室A)  
講 師 : 益田文和氏(グッドデザイン賞審査委員)  
講演テーマ : 中小企業におけるデザイン導入とグッドデザインの評価  
入 場 料 : 無料

### 香川の伝統的工芸品パンフレット

デザイン協会会員の皆様に募集いたしました「香川の伝統的工芸品」パンフレットは、審査の結果、DESIGN SPACE VOXの大西洋三氏のデザインに決まりました。



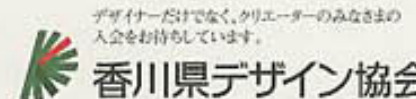
かがわデザインフェスタ2000に展示された香川県地場産業デザインルネサンス事業の成果品

### 香川県デザイン協会入会状況

(平成12年3月31日現在)  
正会員 法人52 個人73  
賛助会員81 準会員3 合計209

正会員内訳			賛助会員内訳	
分野	法人	個人	分野	会員数
A グラフィック	20	22	A 製造業	25
B 建築・環境	13	11	B その他企業	20
C インテリア	4	9	C 個人	9
D インダストリアル	0	0	D 地場産品	8
E テキスタイル	3	3	E 商工団体	8
F その他	12	26	F 行政	10
計	52	73	計	81

情報をお寄せください。  
香川県デザイン協会では、各業種協会と連携して活動しております。  
お声かけください。お問い合わせは、各業種協会へお問い合わせください。



香川県デザイン協会  
2000年3月31日現在  
事務所 ●〒781-0301 高松市林町2217番地15  
香川県産業振興センター内  
Tel 087-869-3700 Fax 087-869-3703

### 喜多俊之講演会



平成11年度の香川県デザイン協会の大きな事業だった「地場産業デザインルネサンス事業」の締めくくりとして、これまでのデザイン開発の作品展示や地場産業としてのデザインの重要性について指導デザイナーの喜多俊之氏に講演いただきました。当日は、喜多氏からの話以外にも、デザイン開発チームの担当デザイナーからの説明、喜多氏のビデオによる海外事情の紹介など、さまざまな角度からデザインを考える機会となりました。以下は、その中から、講演部分についてお知らせします。

**地場産業のベースは、人であり、人々の考え方で。人の暮らしを夢のあるものにするのが、デザインの仕事。**

#### ■韓国は、暮らしの復興を考え始めた。

デザインは、国を左右するものになります。先日、デザインセミナーで韓国に行って来たのですが、国を挙げてデザインに取り組んでいます。その中でも暮らしの復興と言いますが、生活を良くしよう、そのためにいいものを作ろうというものです。

これは、戦後のドイツやイタリアと同じ道です。いいものを作って、輸出しよう、それと同時に、いいもので生活を向上させようというものです。その結果、イタリアもドイツも、デザインを発信する国になりました。

私の子どものころは、正月がとて待ち遠しいものでした。正月には、着物を着て、遊のおもちゃ料理をいただきました。それが普通でした。いまは、初詣でも、普段着で行きますし、着物の人も少なくなりました。遊のおもちゃもなくなりました。人と人の交流がない、食器とか服とか必要ないです、物がいらなくなります。

私は、漆や和紙などの伝統工芸の復興に取り組んでいますが、行き着いたのは「生活」「暮らし」でした。伝統工芸の衰退は、結局、生活の衰退だったのです。

#### ■アイデンティティと、精神的な復活と――

香川だけでなく、他の地域の人も頑張っています。たとえば、新潟の伝統的な地場産業の人たちが海外に行くと活路を見出そうとしています。これまでも同じものではなく、新しいものを作る努力をしているのです。

単に海外の目新しいものを持って行くというのではなく、アイデンティティが必要です。それは、「精神的な復活」です。ものの変遷は、背景に精神的な変遷があることを認識するのです。

もう30年くらいイタリアのミラノと付き合っていますが、もうこうでは、町の人たちがみんな挨拶します。町に出ると、よく立ち話をしています。ミラノでも郊外型の店舗が進出しようという時期がありました。人と人の結びつきを大事にする住民が反対したという経緯があります。みんなが、コミュニケーションを、コミュニティを大切にしているのです。アイデアは、「根っこ」がないと花は咲きません。地域のひととひととのコミュニケーションが、アイデアも「根っこ」になると感じます。

#### ■使うだけでなく、夢も持っていたい。

ここにデザイン開発試作品があります。アピールする時、マーケティングやマーケティングを考えると同時に、人の心の部分も大切にしなければなりません。

そして、試作品を作りましたというだけでなく、この商品が市場を駆けめぐらなければならない意味があります。イギリスがサッカー首相の時代に、デザインを国家事業として



どうするかということに取り組みました。フランスもそうでした。国が、デザイナーを支援しています。

台湾では、国が「デザイン月間」を作っています。現在、私たちの身の回りにもmade in 台湾のものも多くありますが、台湾の人たちは、得業、台湾でのものづくりは終わると見切っている。中国に製造がシフトするだろうから、台湾はデザインで生きるとのこと。同じように、韓国も、タイも、デザインに国をあげて真剣に取り組んでいます。

いま、私は、いくつかの大学に教員に行っていますが、受験をくぐり抜けてきた人にも多いですが、プロとしてのアイデアに乏しい。日本は、輸出が国を支えていますから、若い人たちのデザイン力の衰退は、大きな問題です。

ものを扱うのは、使う(＝機能を買う)以外に、持っていたいという人の思いもあります。これは「夢を持っていたい」ということです。安いものも必要ですが、生活の衰退を止めるもの、夢のあるものも大切です。人が集まる、季節の行事や祭りに必要なものもそうです。生活を支えていた物事に注目することが、商品開発に必要です。

#### ■いいものを作ろう、人の心をつつものを作ろう。

各地に地場産業がありますが、和紙や漆など、数千年を経ているのも地場産業です。つい最近できた産業も地場産業です。伝統的な産業は、自然環境や地域の生活に支えられています。地場産業のベースは、人であり、人々の考え方で。日本は、いま経済の長い低迷を続けていますが、いま、次の時代の可能性を見つけていく時期です。

今回のプロジェクトでも、いいものを作ろうということコンセプトにしています。安いだけでなく、人の心をつつものを作れば、いい商品になります。

私は、いろいろな地域に伺いましたが、香川には大きな力を感じます。ぜひ、今回の事業(デザインルネサンス事業)を実現させてください。

## かがわデザインフェスタ2000開催

「かがわデザインフェスタ2000」は、3月24日(金)～31日(金)まで、香川県文化会館で行われました。第2回となる今回のフェスタでは、「Old&New―調和・共生―」をテーマに、238点(テーマ部門42点・自由部門196点)が出品。香川のデザインおよびデザイナー、そして「いま」を浮き彫りにした展示となりました。インパクトのある魚の骨のイラストのポスターも印象に残りました。

今回、初の試みとなった「一般参加」では、香川の新旧グッドデザインの対比を試みました。これは、「香川の古き良きデザイン」「新しい良きデザイン」を来賓者が自由に「投票」するもので、香川にあるデザインを考える場として注目されました。

今回は開催期間が春休みと重なっていたこともあり、学生の来場が減少し、昨年よりは少ない来場者(約1500名)となりましたが、第1回目からの変化を遂げた「かがわデザインフェスタ2000」は、西暦2000年という時代の節目にあって、広く社会にデザインを考える絶好の機会となりました。



1Fテーマ部門



2F自由部門



2F自由部門



1Fテーマ部門



2F自由部門



2F自由部門



2F自由部門



3F自由部門(手前は香川県地場産業デザインルネサンス事業の成果品)



2F自由部門



2F自由部門



3F自由部門



3F自由部門

## 秋月繁 和田邦坊のデザインを語る

「かがわデザインフェスタ2000」では、特別展示として、香川の古き良きデザイナーとして、「和田邦坊のデザインの世界」を紹介。3月25日には、「秋月繁 和田邦坊のデザインを語る」を開催し、和田邦坊氏のデザインの世界を多角的に検証しました。

講師は、日本パッケージデザイン協会理事も務められ、グラフィック・パッケージデザイナーとして幅広く活躍されている秋月繁氏に、和田邦坊のデザインの世界を語っていただきました。

――1976年、日本パッケージデザイン協会で、日本全国のパッケージを収集・記録しようということで、四国にもやってきた。角谷さんと一緒に四国を回ったのですが、香川にすごいのがあった。それが邦坊さんのパッケージデザインとの出会いで、東京のパッケージデザイナーの間でも話題になりました。私は、その後、広島で講演の機会があり「地域の個性を伸ばすデザイン」について、邦坊さんの個性的

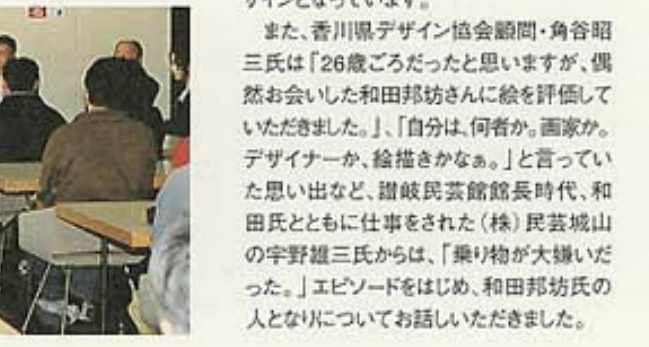
なデザインを紹介しました。邦坊さんの魅力について考えた場合、新聞社で漫画雑誌記者を書いたり、ユーモア小説も書いた邦坊の広さが影響しているのではないかと思います。

今回のデザイン展では多くの作品が一堂に展示されていますが、絵画とパッケージデザインのレベルがまったく同じで驚きました。邦坊さんの作品は、文字の造形力に魅力がある。ひょうんなところが味わいになり、見る者の心を包みこんでくれるデザインになっています。

また、香川県デザイン協会顧問・角谷昭三氏は「26歳ごろだったと思いますが、偶然お会いした和田邦坊さんに絵を評価していただきました。」「自分は、何者か。画家か。デザイナーか。絵描きか。」「と語っていた思い出など、雑誌「民衆美術」時代、和田氏とともに仕事をされた(株)民衆美術の宇野雄三氏からは、「乗りが大変だった。」「エピソードをはじめ、和田邦坊氏の人となりについてお話をいただきました。



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界



3F特別展示 和田邦坊デザインの世界